

●国保成東病院について

Q さんむ医療センターの診療科は、産科の他は全部、継続と理解してよろしいか。

A 保健福祉部長 はい、そのとおりです。診療科目は、16科を予定しています。

Q 山武市の平成21年の出生数を伺います。

A 保健福祉部長 平成21年4月1日から今年の1月31日までに267名です。

Q これだけ少子化になっていて、子供は本当に宝です。山武郡市内で一番多く山武市の方がお産をする東金市のA産科医院には年間150人ぐらいがお世話になっています。例えば1人がお産でお世話になったら3万円くらい医院に応援するなど市で取り組んでいく考えはありますか。

A 市長 お産でお世話になっている医院に、何らかの形で応援するといった考え方を評価委員の先生の中にもお持ちの方がいました。産科のあり方も様々な考え方が出てくると思います。

中期目標の中では、さんむ医療センターに、早期に産科を開設するということがかり考えていたというのが現状です。

Q 二次救急の輪番病院としての機能強化についてお聞かせ下さい。

A 市長 二次輪番につきましても、積極的に可能な限り受けていきたいと考えています。

Q 救急車で搬送される患者で、救急を要する患者は、全体の数%と聞いています。初期の担当をすることが一番大事です。今後の取り組みをお聞かせ下さい。

A 市長 成東病院は、郡内での唯一の脳神経外科を持っている病院ですが、残念ながら、緊急の手術その他は、現状行えるスタッフをそろえられない。ただし、例えば脳梗塞の初期治療に大変有効な薬もあるので、初期に有効な手当てができるよう目指したいと考えています。

Q 評価委員会で、看護師育成等の意見交換が多い中で、なぜ看護師代表を任命しなかったか。

A 市長 当初、構想はあり、お願いをしたがい返事をいただけなかったため、現在の構成に至った。

Q JA水戸協同病院では第1、第3土曜日に診療を行っています。さんむ医療センターでも月2回程度、土曜日に診療したら住民が助かると思いま

すが。

A 市長 現在の計画には入っていません。土曜日や休日の診療が大変望まれること、十分理解をしています。可能な状況になれば、病院側で考えていくことだと思っています。

Q 350床で開設するメリットは。

A 副市長 縮小均衡の病院であるより明確に従前同様に十分な病床を確保し、また成長していく病院という方向を示したほうが望ましいことから350床を維持する方向となりました。

Q 看護師確保について看護師が職場を選択する場合は、第1に高度医療の研修ができるところ、第2に待遇のよいところを選択するそうです。さんむ医療センターの環境はどうですか。

A 市長 看護師の定着、離職の問題は大変深刻だと思えます。待遇面につきましては、十分に競争力のある待遇を考え、さらには、この地域の看護師が育つことが、この地域に看護師が定着してくれることだと言われているので、看護師にも選んでいただける病院というものを目指していきたいと考えています。

Q 中期目標に城西国際大学に看護学部を要望し、看護

師を目指す学生に奨学金の導入を実施するとあるが、山武市のみの要望ですか。

A 市長 東金市、九十九里町から既に出されていると聞いています。

Q 看護師の養成所が県下に助産師、保健師まで36校あるが看護師確保のためにどのような行動を起こしていますか。

A 市長 毎年、事務長、看護師長が各学校を回っていると聞いています。

Q 地域医療再生基金について、説明会があったと聞いていますが内容は。

A 副市長 千葉県が地域医療再生基金のプログラムを作り、昨年10月と今年1月に山武・長生・夷隅の行政関係者と医療の関係者に説明がありました。

Q 山武・長生・夷隅医療圏地域医療再生計画について、情報の共有化が一番大事だと思います。どうして議会に説明しないのか。

A 市長 こういった資料は、できる限りお知らせしなければいけないのだと思います。これからのこういったことがないよう努力をします。



平成会 関連質問



越川 哲 議員

●国保成東病院と「さんむ医療センター」について

Q 「さんむ医療センター」のスタートに伴い、国保成東病院は3月末日を以って一部事務組合を解散し、57年間の歴史に幕を閉じます。最後の管理者となります、椎名市長の現在の心境はどうか。

A 市長 国保成東病院は57年前、多くの市町村の協力により設立されました。この間、先輩諸氏がこの地域の医療を充実させるため、惜しみない努力をしてきたものと理解しています。私としても、この地域の医療を守るため、誇りを持って成東病院の管理者を務めてまいりました。

そんな中で、さまざまの状況から成東病院は一部事務組合を解散することになりました。本来ならば、消滅もあり得たかもしれませんが、地方独立行政法人「さんむ医療センター」として再出発をすることができました。今は、この「さんむ医療セン